

## 令和5年度 第2回 宇都宮市総合教育会議 議事録

1 日時 令和6年3月22日（金） 午後4時15分～午後5時

2 場所 宇都宮市役所13階 教育委員室

3 出席者

（構成員）

佐藤市長

（事務局）

小堀教育長，大森委員，檜山委員，小野委員，亀山委員  
梓澤教育次長，口川学校教育担当次長，渡辺教育企画課長，  
板倉総務担当主幹，加藤学校管理課長，小栗学校教育課長，  
宇賀神学校健康課長，鈴木生涯学習課長，吉澤文化課長，  
大嶋スポーツ振興課長，金子教育センター所長，  
古内教育企画課長補佐，濱野教育企画課企画G係長，  
菊地教育企画課企画主任主事

4 傍聴者 なし

5 議題 令和6年度教育委員会基本方針（案）について

6 議事の内容

(1) 開会

梓澤教育次長

ただいまから，令和5年度第2回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。  
よろしくお願いします。

(2) あいさつ

梓澤教育次長

はじめに，佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。

佐藤市長

佐藤市長あいさつ

梓澤教育次長

ありがとうございました。  
続きまして，小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。

小堀教育長

小堀教育長あいさつ

梓澤教育次長

ありがとうございました。  
ここからの議事の進行につきましては，市長にお願いしたいと思います。  
佐藤市長，よろしくお願いします。

(3) 議事

佐藤市長

それでは，議事に入ります。  
「令和6年度教育委員会基本方針（案）について」事務局から説明をお願いします。

令和6年度教育委員会基本方針案について事務局（総務担当主幹）説明

佐藤市長

それでは説明が終わりましたので，教育委員会の皆様からもそれぞれご意見を伺いたと思います。

大森委員

私からは「基本方針(2)成長し続けるための基盤を培う」について意見を述べさせていただきます。防災減災の視点から話をさせていただきますが、日本は世界でも類をみない災害大国であり、マグニチュード6以上の地震の約2割は日本で起こっております。栃木県は災害が少ないといわれておりますが、その地形から土砂災害や水害のリスクに晒されている地域です。生活環境下で、子ども達が災害について理解し、命を守るための行動を取ることができるよう、平時から家庭や地域のみならず、学校現場でも防災教育を避難訓練等々間断なく進めていくことが求められていると思います。災害時やその後の避難所生活で子ども達が自分の命はもとより、他者の命も守る行動を行ったことは私たちの記憶に新しいところでございます。例えば、メディアを通して東日本大震災の時は中学生が幼児や高齢者の手を引いて共に逃げる姿や年明け早々に発生した能登半島地震の避難所では中学生が新聞を作ったり率先して炊き出しをしたりする姿がありました。本市防災教育の視点に「災害後の生活、復旧、復興を支えるための支援者となる視点を重視する」、目標に「災害発生時及び発生後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする」とあり、発達段階や生活環境に応じた教育を教育委員会に留まらず、部署横断的に、地域とともに進めていければと考えております。これらの取組みが子ども自身が他者の役に立つために行動できる、自己有用感を高めることにも繋がっていくものと期待しております。

檜山委員

私からは2点ございます。「基本方針(7)教職員が生き生きと勤務できる環境を整え、信頼される教職員を育てる」についてまず意見を申し上げます。教職員の資質能力向上という点では職歴等に応じた研修を行っていくことは非常に重要であり、多様化複雑化する子どもたちへの対応力を身に付けていただきたいと思います。そのために高い専門性を学ぶための研修内容が必要であることは言うまでもありません。個別最適な学びが、子どもたちだけではなく、教職員にも適用されるよう教育委員会と教職員がしっかりと連携して取り組みを進めていきたいと思っております。学校における働き方改革の推進については多方面から検討が図られ、状況は改善されつつあるとは思っておりますが、学校の規模や校務等によってはまだまだの部分もあると思われます。学校がこれまで担ってきた業務を仕分けしたことで、支援員や地域の協力を得るべきことが明確になっていると思いますので、積極的に頼れる雰囲気作りにも気を配っていただきたいと思います。

次に、「基本方針(1)「教育で選ばれるまち宇都宮」の推進」について申し上げたいと思っております。人口減少時代に宇都宮市も突入して参りました。これからのまちづくりに「移住・定住施策」は必要なものの一つだと思っております。単純に教育水準が高いことをPRするだけではなく、教員として働く環境が良いことを市外に向けて発信できるよう働き方改革を推進して総合的に教育で選ばれるまちを作って行っていただきたいと思います。

小野委員

私からは「基本方針(5)児童生徒の様々な状況に応じた指導・支援を行う」について意見を述べさせていただきます。この中の「いじめ・不登校対策の充実」についての項目の中に、中学校全学年において、WEBQUの年2回の実施の記載があります。スマホやタブレットによって、児童生徒が容易に様々な情報へアクセスできるようになり、また、児童生徒同士もSNSで直接つながれるため、大人の目の届きにくい状況が生じていると思います。そのため、いじめや不登校の問題は、潜在化し深刻化しやすくなっている状況だと認識しています。このような状況で、児童生徒の学校生活における満足感や意欲、学級集団の状態等を紙のアンケートで回答してもらうQ-Uという手法をすでに取り入れていたところですが、これによって、児童生徒や学級の状態を客観的・多面的に理解することができ、いじめや不登校の未然防止に役立たせてきたところではあります。これからは、1人1台端末を活用してWEBアンケート方式のWEBQUを、まず中学生から実施することとなりました。まず、実施回数が年2回に増えますし、生徒や学級集団の状態の変化に即応できる可能性が高まります。これまでは分析結果の返却までに2週間かかりましたが、結果が瞬時に返ってくるという利点があります。従来はタイムラグによって対応が間に合わなかった問題に対しても、今後は、即応できる可能性が高まってくると考えます。良い所が多いと思いますが、一方で質の高い分析結果が大量の情報として返ってくる際に、学級担任のみが試行錯誤して責任を負うのでは、十分な効果を得られないのではないかという問題意識があります。組織全体でその情報を共有して、一体的に活用してこそ、期待される本来の効果を発揮できるものと考えますので。例えば、活用方法のマニュアル化も大切であるという意見を述べさせていただきます。また、中学生だけではなくできる限り速やかに、小学生まで対象を広げるべきであると考えますが、費用の問題などもありますので、時間がかかってしまう可能性も考えております。今後も、情報をアップデートし続け、このQUに限らず最先端の技術や手法を取り入れて、いじめ・不登校対策の充実に努めていきたいと考えております。

亀山委員

私からは「基本方針(8)地域とともにある学校づくりを進める」についてお話させていただきます。現在、本市においては各小中学校に「魅力ある学校づくり地域協議会」以下、魅力協と呼ばせていただきます、が設置されており、心豊かでたくましい宮っ子を育むために、地域で取り組み、学校の教育活動や運営に参画しているところです。一方、国では「コミュニティ・スクール」以下、CSと呼ばせていただきます、が学校運営協議会制度の導入を進めているところであります。本市におきましても、国の動向を踏まえ、令和4年にCSモデル事業の実施の検討をはじめたところではありますが、本市におきましては先駆けて魅力協が組織的・継続的な体制で構築されていますことから、それらをベースとして段階的にCSの導入は比較的受け入れやすいと考えております。しかしながら、CS導入につ

いては、既存の仕組みや機能の違いも見えてきておりますことから、慎重に進めていかなければならないと考えています。私は現在、魅力協の委員として様々な活動に取り組んでいます。現場では、委員の高齢化・担い手不足・委員としての資質等、多岐に渡り課題も山積しているところになります。地域とともにある学校づくりを進めるためには、これらの課題とともに、より一層充実した魅力協を構築することが重要であり、魅力協の充実により、より良い学校運営に効果があると考えております。市長の率直なご意見をお伺いしたいと存じます。

小堀教育長

私からは、先ほど檜山委員からもお話がありましたが、「基本方針(1)「教育で選ばれるまち宇都宮」の推進」についてお話をさせていただきたいと思います。宇都宮市は子育てしやすい街・住んでみたい街の上位にあります。このような中、本市としては教育の面でも同じように選ばれる街になって欲しいと考えております。今年度最初の教育長訓示でもこのことを言えるよう事務局にも協力してもらったところです。また、市長のご尽力のもと、約600人の人的配置や体育館のエアコン設置、その他にも自校炊飯によるおいしい給食、校務のデジタル化等々教育の環境面ではかなり進んでいると思います。その成果として例えば、図書館司書の配置によって読書量が中核市トップクラスといったことをはじめたくさんあります。これからも環境の部分のPRとその成果として、宇都宮市の素晴らしい点を誇れるような教育行政をより一層推進して参りたいと思っております。そのためには、教育委員会事務局職員だけではなく、現場の教職員にも頑張ってもらっていただき、この「教育で選ばれるまち宇都宮」の推進を図っていきたいと考えております。

佐藤市長

ありがとうございました。私からもお話させていただきたいと思います。大森委員から話がありました防災意識の醸成につきましては、本市といったしましても頻発する自然災害に対応していかななくてはなりません。あらかじめ予防して完璧に抑えることは難しい所はありますが、出来る限りのことはしっかりと対策をとり、いざ災害が起きた時はしっかり市民一丸となって対応していくことが重要だと考えます。特にキーワードは「自分の命は自分で守る」。これが一番肝要だと思います。これまでのハードの整備につきましては、台風19号が令和元年にあり、田川が氾濫いたしました。それを教訓に県と市が協力し、まず一級河川の田川を管轄する県が浚渫を徹底して行っていただいたところになります。そして市としても田川の上流部に雨が降った時これまでそのまま流していた雨水を貯めていただき、川の状況が落ち着いたら流していただく田んぼダムを農家の方々に協力をいただいて、相当な面積を確保しております。今のところ、水害や洪水、氾濫はありませんので、効果が出ていると思います。追いかけるようにして今年から県が上流部の豊郷と横川に調節池を設置いただく作業に入っていると思います。ハード的に大きな効果があると考えておりますし、ハザードマップの全戸配布も来年度予算で作らせていただきます。相当分

厚くなりますがマイタイムラインと合わせて活用していただかなくてはならないと思います。学校につきましても、先生も市民と同じように自分たちの命を守るとともに子どもたちの命を守っていくためには、現場の先生が一番力を発揮していただかなくてはなりませんので、その意識をしっかりと持っていただきたい。行政の職員も被災者になる可能性がありますので、先生方にも一人の市民としても教員としても対策を講じていただきたいと思います。各地域でおこなう避難訓練や各地域を順に回る1年に1回の総合防災訓練があるので必ず一度は経験していただいて、どんなことが起こるかわからない災害に向けて地域で頑張っていただければと思います。

檜山委員と教育長からお話がありました「教育で選ばれるまち宇都宮」につきましても、行政の取組で良いことをやっても知られないと本当にもったいないと思います。特に教育においては、中々知られていないという所はあると思いますが、おそらく全国でトップクラスの教育を行っているのは間違いないと思います。先ほど出てきた様々な支援の他に、来年度予算で副校長先生が相当忙しく、困っているという話を受けたので、副校長先生が校長先生の指示のもと自由に動きながら各担任や学級を支援できる余裕を持っていただけるよう副校長マネジメントという支援員を配備することとしました。必要なことはどんどん手を打っていきます。それによって得られた効果は、教育委員会を含めてどんどん外に発信していくことが必要だと思います。選ばれる都市として人や企業が宇都宮を選んでくれば、まさしく市の力は大きくなってまいりますので、そういった面も含めて是非やっていきたいと思います。また、以前集まりがあった際、壬生町の先生方が、宇都宮は羨ましいという話や、我々が気づいていない宇都宮の良さを言ってくれたのでそういった良さをどんどん発信していく方が良いと思います。

小野委員からは1人1台端末を活用したWEBQUの話がありました。GIGAスクール構想で1人1台の端末が設置されていますので、そこでプライバシーが守られた上で、本音を先生に言うことができたり、正直に心のうちの中を述べることができたりする環境が整いましたので、大いに使っていただきたいと思います。先生方もマニュアル化というお話をいただきましたが、色々なデータや経験談なども共有した方が良いと思います。やはり教育は生きているものなので、1人1人に違う対応が必要な場面が出てくると思いますので、そういうものを共有・共用することが良いのではないかと思います。

亀山委員からはコミュニティスクールについての話がありました。十何年前に魅力協ができる時に国からコミュニティスクールの話はありましたが、それぞれの地域で全く実情が違い、それを一括りにCSとするのは少し乱暴だということで、宇都宮は魅力ある学校づくり地域協議会を作り、

それぞれの学校の地域と学校が一体となって、それに合わせたオリジナルのものを作っていくこととしました。現在、学校や子どもたちの環境は先生や親だけでは作ることはできません。昔はそのような状況ではなかったにも関わらず、地域の皆さんが一生懸命学校に支援をしていただきました。そういった形にまた学校を戻していく必要があると思います。新年度に実施するCSのモデル事業による検証を通して、その地域に合ったあるいは参加者の方々に合ったものにしていくことができるようにできればと思っています。杓子定規に、また事務的に作っていくと金太郎飴のようにどこを切っても同じようなものになってしまうので、亀山委員がおっしゃるようにそれぞれの地域に合わせたより良いものにしていくためにもこういう試みが必要ではないかと思います。また、地域コミュニティの要となっている自治会ですが、加入率が低下しています。現在の加入率は69%くらいですが、60%を切るとすぐに50%くらいになってしまうと思います。自治会や消防団のような組織がないと、特に地方の宇都宮市において、まちづくりの点で前に進まなくなってしまう、安心・安全なまちづくりからは程遠くなってしまう。子どもたちの環境を含めて良くしていくためには、自治会は必要不可欠な組織でありますので、市長として来年度の予算においてもしっかり対応できるように自治会の加入率アップ、そして誰もが地域の中で主役になっていただけるようなまちづくりを進めていきたいと思っています。CS、魅力協についても、自治会にどんどん関わっていただきたいと思いますし、特に企業にも入っていただきたいと思っています。企業の力は本当に大きく、まちづくり全体で企業の方々にもどんどん入っていただいておりますので、大きな成果が出ておりますので、しっかり参画を促していきたいと考えております。

それでは、皆様方からどのようなことでも結構ですので、他にご意見があればお願いします。

大森委員

先ほど市長から「壬生町の先生方が、宇都宮は羨ましい、我々が気づいていない宇都宮の良さを言ってくれた」というお話がありましたが、どのようなことをおっしゃっていたのか教えてください。

佐藤市長

一番羨ましいとおっしゃっていたのは、加配の先生の事でした。本市は600名位おりますが、配置を決断できたことへの驚きの言葉や、教室や体育館の空調の整備は羨ましいとおっしゃっていました。

小堀教育長

ずっと宇都宮の教員をやっている方は宇都宮の良さは分かりにくく、異動などで一度宇都宮から離れたり、宇都宮の外から来ると分かるため、宇都宮から出たくないという声も聞きます。やはり、人の配置や公務のデジタル化なども進んでいるからだと思いますので、他市町と比較してみると宇都宮市の働きやすさが分かると思います。

|                         |                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小野委員                    | 教員採用試験の応募については、東京の方だと定員に対し倍率が下がっていると聞きますが、宇都宮市はどのような状況なのでしょうか。                                                                                                                                                          |
| 小堀教育長                   | 正規の教員は県が採用しておりますが、倍率は下がっていると聞いています。応募者が減っているため、臨時の教員も中々集まらず全ての学校に配置できていない状況です。産休・育休で休んでいる先生の代わりが見つからないところも何校もあり、厳しい状況はあります。                                                                                             |
| 亀山委員                    | 倍率が下がったことによる影響はあるのでしょうか。                                                                                                                                                                                                |
| 小堀教育長                   | 教員の質の低下は懸念されると思います。臨時採用の教員で良い方がいればその人を正規で採用できるようになると質は確保できると思います。県の採用試験においてもそういった経験が加味されるようになったと聞きます。                                                                                                                   |
| 小栗学校教育課長                | 講師の経験があれば一次試験の一部が免除されるようになります。                                                                                                                                                                                          |
| 佐藤市長                    | 教員の働き方改革が叫ばれ、本市も相当力を入れていますが、先生方に話を聞くと、仕事は長時間で大変だが、子どものためなら何とも思わないとおっしゃる方もおり、そういう方が先生になって欲しいと思います。部活動の指導も苦手であっても子どもと一緒にできるので問題ないという方もいらっしゃいます。休日の部活動の地域移行もどんどん進めていく必要がありますし、アマチュアでもプロレベルの人たちが多いので、そういった方々が指導者になり得ると思います。 |
| 小野委員                    | 現在、核家族化が進み、家庭の教育力が低下するなどそういったことが働き方改革に結びついているが、子どもを守る都市宣言をしていただいたことで、上手く保護者の皆様の教育のレベルの向上に繋がっていくと良いと思います。                                                                                                                |
| 佐藤市長                    | それでは、そろそろ時間となりますので、意見交換を終了したいと思います。                                                                                                                                                                                     |
| <b>(4) その他</b><br>佐藤市長  | 次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。皆様から特にないようですので、以上で会議を終了し、進行を事務局に戻します。                                                                                                                                                  |
| <b>(5) 閉会</b><br>梓澤教育次長 | 市長、ありがとうございました。<br>以上で、令和5年度第2回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。<br>様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。                                                                                                                                       |